

12-7 1855年安政江戸地震と史料

1855 Ansei Edo Earthquake and historical documents

矢田俊文（新潟大学人文学部）

YATA Toshifumi, Faculty of Humanities, Niigata University

1. 1495年明応関東地震と史料

1855年安政江戸地震の検討をする前に、1495年明応関東地震に関する歴史学における近年の成果を記しておく。「鎌倉大日記」を検討した片桐（2014）は、「鎌倉大日記」彰考館本の原本における明応四年を含む応仁元年（1464）頃から文亀元年（1501）までの年代記の記事の大部分は後柏原天皇の在位期間とくに文亀元年直後の頃に加筆されたと考えられること、加筆者は当時鎌倉あるいはその近辺に住んでいた可能性が高いこと、明応四年（1495）九月の伊勢早雲小田原攻略の記事を否定する根拠はないことを明らかにした。これにより、「鎌倉大日記」明応四年八月十五日の「大地震洪水、鎌倉由比浜海水到千度檀、水勢大仏殿破堂舍屋、溺死人二百余」という鎌倉地震津波の記事は、文言の誇張等はあるかもしれないが、10年足らず前に近所で発生した出来事を記した信頼できる記事であることが明らかになった。

2. 前近代の家屋倒壊率と史料

歴史地震の規模を導き出す家屋倒壊率について、従来の研究は〔(全潰戸数) + 0.5 × (半潰戸数)〕を全戸数で除したものをパーセントで示し、これを家屋被害率としている。しかし、これは半潰がどのような被害の状態を示すのかについて検討した上で提案されたものではない（矢田2016）。また、一つの文書に村の家数と潰家数が記載される良質の史料であっても、半潰の軒数について明確に記されない場合がある。たとえば、村数52か村の被害状況を示した良質の被害報告書である安政2年（1855）10月付けの「大地震ニ付潰家其外取調書上帳 幸手領村々」では半潰の被害項目がない。半潰の被害項目がない史料と半潰の被害項目がある史料を同じ基準で被害率を求めると、地震規模の推定は不正確となり、歴史地震を正しく評価することができなくなる。これまでの安政江戸地震の検討は史料解釈に無理があり分析や評価は正しくない。

3. 1855年安政江戸地震と武蔵国幸手領・川崎領

中村・松浦（2011）によると、安政江戸地震の中心は江戸中心部と武蔵国葛飾郡幸手領（埼玉県幸手市・久喜市・杉戸町・春日部市、第1図）の2つに分かれている。しかし、幸手領の家屋倒壊率（家屋全壊率）は0.3パーセントであり（第1表）、幸手領を安政江戸地震の中心地のひとつと理解することはできない。広域の地震被害を検討するときには、家屋倒壊率を導き出すためのものとして半潰軒数は使用しない方がよい。家屋半壊率を含めず家屋全壊率だけで家屋倒壊率を考えることが妥当であると考えられる。

中村・松浦（2011）が検討を行った「大地震ニ付潰家其外取調書上帳 幸手領村々」に記載される「人家土蔵物置等潰家同様」の項目（第1表c）の解釈については、幸手領平須賀村の被害報告書（加藤2006）をふまえて解析する必要がある。この史料によると、平須賀村の第1表c「人家土蔵物置等潰家同様」18棟（第1表17）は、潰家数（世帯数）ではなく、棟数（建物数：居宅、木小屋、土蔵、表門・裏門・土塀）であり（第2表）、家屋倒壊率を導き出すための被害数

にはならない。家屋被害数は皆潰の被害数だけを使用すべきである。幸手領の全壊家屋倒壊率は0.3パーセント（総潰家17軒／総家数5051軒）である（第1表）。よって、幸手領は1855年安政江戸地震被害の中心の一つとは考えられない（矢田2017）。

他の地域も潰家数（全壊家屋数）によって家屋倒壊率を導き出す必要がある。武蔵国橋樹郡川崎領（神奈川県川崎市川崎区・横浜市鶴見区、第2図）については、安政二年十月地震領中村々潰家破損取調書上帳控（横浜開港資料館所蔵添田家文書）から家屋倒壊率を導き出せる。同史料は川崎領15か村の被害状況が記される。この15か村の家屋の全壊率（皆潰19軒/家数1726軒）は1.1パーセントである（第3表）。この家屋倒壊率からみると、川崎領も安政江戸地震被害の中心地ではない（矢田2017）。

4. 1855年安政江戸地震と被害の境界

鈴木平九郎の「公私日記」によると、日野宿寄場組合44か村（東京都日野市・昭島市・八王子市・立川市・多摩市・府中市、横浜開港資料館所蔵添田家文書、嘉永6年「武蔵国村数石高家数取調書」）は、蔵の壁、屋根の被害はあったものの、潰家・半潰家はなかった。武蔵国多摩郡柴崎村（立川市）の名主を務めていた鈴木平九郎は、地震が起こった2日後に布田五か宿（東京都調布市）から甲州街道を通り江戸に向けて出発する。途中の代田橋は半崩となっていて、代田橋（東京都世田谷区、京王電鉄京王線代田橋駅そば）付近から江戸市中にかけて被害が大きかった。布田宿から代田橋までは被害の記述はない。被害の大小の境界は代田橋付近であった可能性が指摘できる（村岸・矢田2016）。以上は被害地域西側の境界である。

幸手領（52か村）・川崎領（15か村）のような広域の被害報告書を詳細に検討することにより、全壊家屋倒壊率を導き出すことができる。また、「公私日記」のような史料を詳細に検討すると、安政江戸地震の被害の境界を確定することができる。

前近代の地震研究では、史料とその詳細な検討が必要である。また、半潰・大破など、被害報告書に記される用語がいかなる内容を持つのかを検討することも重要である。

（参考文献）

片桐昭彦、明応四年の地震と『鎌倉大日記』、新潟史学、72、1-16、2014

加藤光夫、安政二年（一八五五）の大地震時における武蔵東部地域、埼玉県立文書館紀要、19、50-71、2006

村岸 純・佐竹健治、一八五五年安政江戸地震の千葉県域内の被害、災害・復興と資料、6、1-15、2015

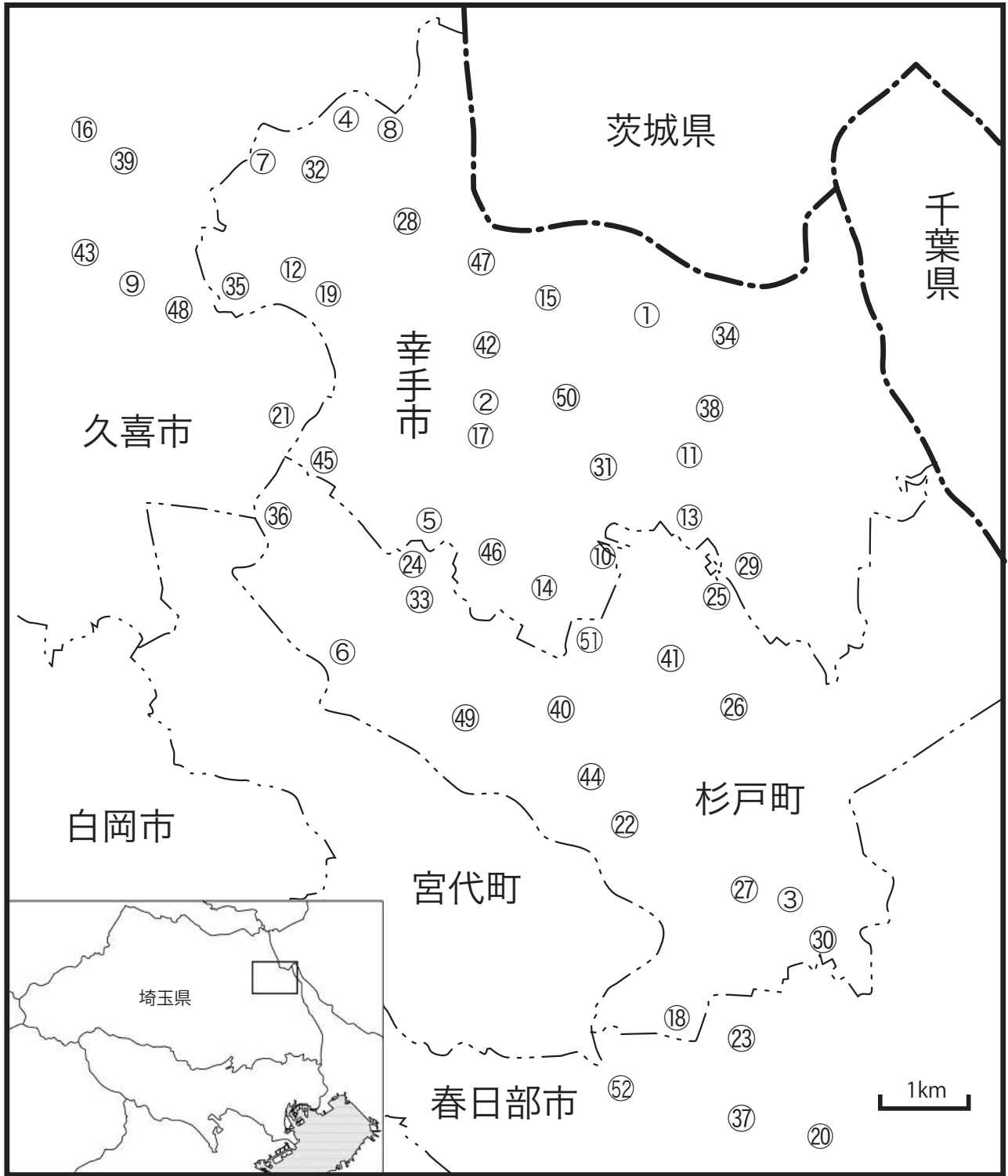
村岸 純・矢田俊文、2016、1855年安政江戸地震における多摩地域の被害、2016年前近代歴史地震史料研究会講演要旨集、22-23

中村操・松浦律子、1855年安政江戸地震の被害と詳細震度分布、歴史地震、26、33-64、2001

中村操ほか、安政江戸地震の首都圏での被害、歴史地震、19、32-37、2004

矢田俊文、一八五八年飛越地震の史料と家屋倒壊率—飛騨国を事例として—、災害・復興と資料、7、1-30、2016

矢田俊文、1855年安政江戸地震における家屋倒壊率の再検討—武蔵国幸手領・川崎領—、資料学研究、14、1-14、2017



第 1 図 安政江戸地震 武蔵幸手領
 Fig. 1 1855 Ansei Edo Earthquake: Musashi Satte area

第1表 1855年安政江戸地震 武蔵幸手領の被害数

Table.1 1855 Ansei Edo Earthquake: damages in Musashi Satte area

番号	村名	a.家数 (軒)	b.潰家 (軒)	c.人家土蔵物 置等潰家同様 (棟)	d.全壊率 (%)	e.怪我 (人)	現在地
1	木立村	57	2	17	3.5	21	幸手市
2	天神島村	47	0	20	0	25	幸手市
3	蓮沼村	37	0	28	0	35	北葛飾郡杉戸町
4	松石村	25	0	28	0	5	幸手市
5	吉野村	27	1	13	3.7	3	幸手市
6	下高野村	127	0	135	0	75	北葛飾郡杉戸町
7	千塚村	65	0	28	0	38	幸手市
8	高須賀村	51	0	18	0	15	幸手市
9	外野村	30	0	15	0	15	久喜市(旧鷲宮町)
10	遠野村	32	0	17	0	0	北葛飾郡杉戸町
11	平野村	30	0	13	0	7	幸手市
12	下川崎村	43	0	18	0	21	幸手市
13	中野村	23	0	17	0	0	幸手市
14	安戸村	46	0	7	0	3	幸手市
15	上吉羽村	65	0	23	0	45	幸手市
16	八甫村	152	0	58	0	18	久喜市(旧鷲宮町)
17	平須賀村	105	0	18	0	59	幸手市
18	本郷村	62	0	45	0	21	北葛飾郡杉戸町
19	牛村	108	0	53	0	108	幸手市
20	樋籠村	56	0	17	0	37	春日部市
21	栗原村	38	0	49	0	3	久喜市
22	堤根村	205	0	207	0	207	北葛飾郡杉戸町
23	不動院野村	72	0	35	0	70	春日部市
24	茨島村	44	0	15	0	27	北葛飾郡杉戸町
25	広戸沼村	13	0	19	0	19	北葛飾郡杉戸町
26	並塚村	91	0	27	0	5	北葛飾郡杉戸町
27	才羽村	80	0	25	0	3	北葛飾郡杉戸町
28	内国府間村	72	0	12	0	7	幸手市
29	長間村	41	0	38	0	0	幸手市
30	大塚村	38	0	27	0	7	北葛飾郡杉戸町
31	神扇村	48	0	18	0	2	幸手市
32	円藤内村	37	0	15	0	0	幸手市
33	大島村	27	0	7	0	0	北葛飾郡杉戸町
34	上宇和田村	28	0	18	0	10	幸手市
35	中川崎村	28	0	20	0	15	幸手市
36	下野村	37	0	25	0	5	北葛飾郡杉戸町
37	八丁目村	110	0	42	0	18	春日部市
38	下吉羽村	56	0	37	0	7	幸手市
39	東大輪村	63	0	28	0	0	久喜市(旧鷲宮町)
40	倉松村	65	0	40	0	3	北葛飾郡杉戸町
41	佐左衛門村	85	0	98	0	23	北葛飾郡杉戸町
42	幸手宿	1089	2	1027	0.2	189	幸手市
43	西大輪村	95	0	43	0	18	久喜市(旧鷲宮町)
44	清地村	203	0	198	0	98	北葛飾郡杉戸町
45	上高野村	245	11	120	4.5	100	幸手市
46	上戸村	15	0	18	0	3	幸手市
47	権現堂村	104	0	72	0	20	幸手市
48	上川崎村	32	0	18	0	9	久喜市(旧鷲宮町)
49	杉戸宿	589	0	207	0	239	杉戸町
50	神明内村	58	0	25	0	10	幸手市
51	大島新田	35	0	28	0	7	北葛飾郡杉戸町・幸手市
52	小淵村	120	1	97	0.8	58	春日部市
	合計	5051	17	3243	0.3	1733	

第2表 1855年安政江戸地震 武蔵平須賀村の被害数

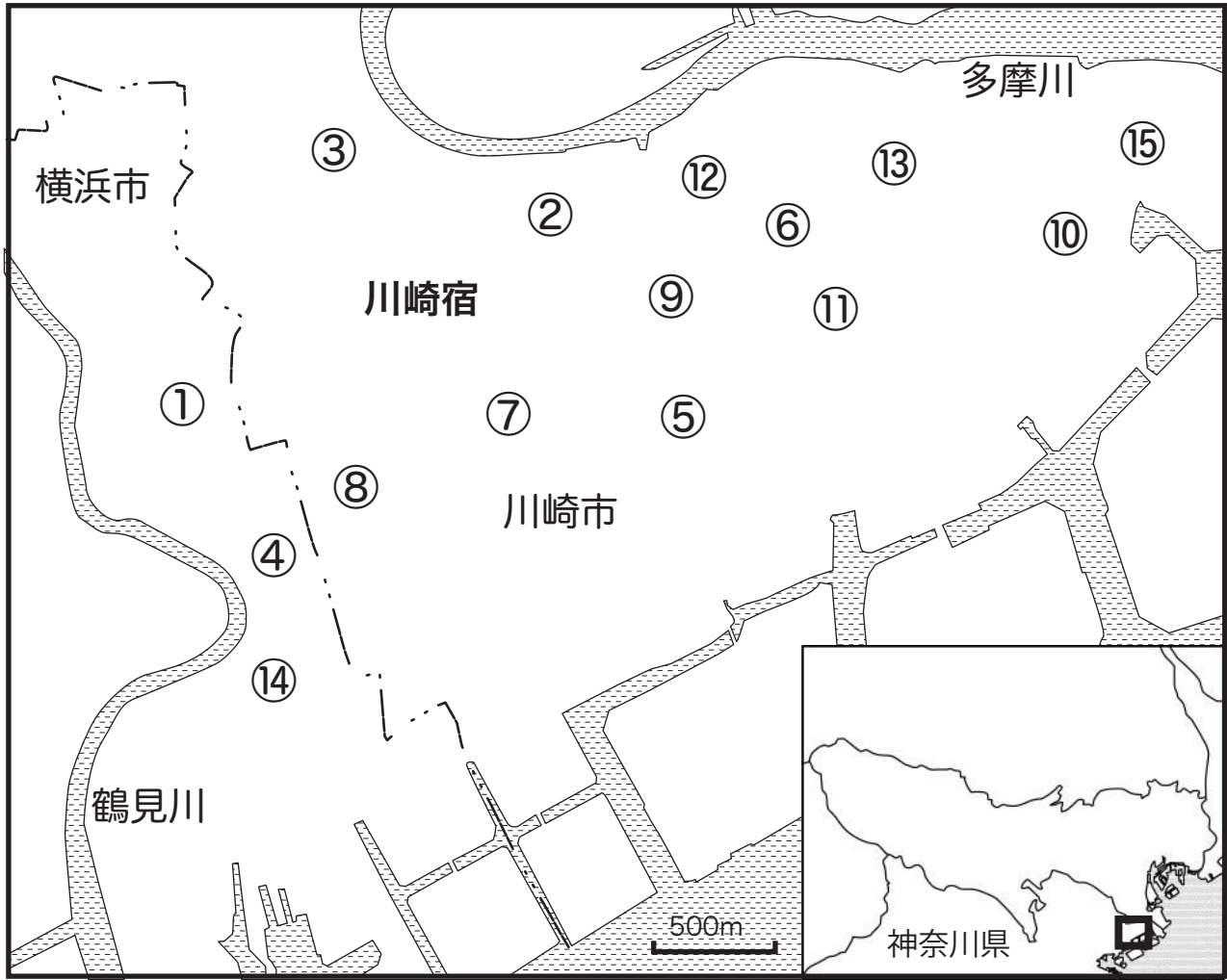
Table.2 1855 Ansei Edo Earthquake: damages in Musashi Hirasuka village

番号	建物名	a. 皆潰棟数	b. 半潰棟数	c. 大破棟数
1	居宅	0	3	4
2	木小屋	0	0	6
3	土蔵	0	1	3
4	表門・裏門・土塀	0	0	1

第3表 1855年安政江戸地震 武蔵川崎領の被害数

Table.3 1855 Ansei Edo Earthquake: damages in Musashi Kawasaki area

番号	村名	a. 皆潰軒数	b. 半潰軒数	c. 破損軒数	d. 総家数(軒)	e. 全壊率(%)	f. 死亡者数(人)	現行地名
1	市場	1	2	14	130	0.8	0	横浜市鶴見区
2	堀之内	0	0	4	106	0	0	川崎市川崎区
3	南河原	1	0	6	104	1.0	0	川崎市川崎区
4	菅沢	0	0	5	27	0	0	横浜市鶴見区
5	大島	0	1	10	150	0	0	川崎市川崎区
6	川中嶋	0	3	15	66	0	0	川崎市川崎区
7	渡田	0	1	10	128	0	0	川崎市川崎区
8	小田	1	0	3	74	1.4	0	川崎市川崎区
9	中嶋	4	0	5	42	9.5	0	川崎市川崎区
10	稲荷新田七左衛門組	2	5	15	204	1.0	0	川崎市川崎区
11	池上新田	0	2	12	12	0	0	川崎市川崎区
12	大島村新組	0	3	10	13	0	0	川崎市川崎区
13	大師河原	5	12	50	268	1.9	0	川崎市川崎区
14	潮田・小野新田共	3	1	50	244	1.2	1	横浜市鶴見区
15	稲荷新田六郎左衛門組	2	6	15	158	1.3	0	川崎市川崎区
	計	19	36	224	1726	1.1	1	



第2図 安政江戸地震 武蔵川崎領
 Fig. 2 1855 Ansei Edo Earthquake: Musashi Kawasaki area